

## 沖縄三日目

ツアー4日目の今日は、実質的には沖縄観光の最終日です。ホテル出発は10時ころとなっていて、オプションのグラスボート乗船があります。せっかくの機会なので申し込みました。

### 1 朝から出鼻をくじかれる

8時40分に荷物をフロントに預けてロビーに集合しました、予定では9時の船に乗ります。このオプションはほとんどの人たちが参加し、2台のマイクロバスで乗船場に向かいました。到着してみると何か雰囲気がおかしいのです、しばらく海を眺めて待っていると、今日は船が欠航とのことでした。見た目にはさほど海が荒れている感じはしませんが、荒天のためだめとのことでした。

やむを得ず引き返しましたがガイドの説明によると、欠航はやむを得ないとしても船会社からホテルへの連絡がなかったのはおかしい。何故かという船会社の担当が、我々のツアーを別のグループと勘違いをしてキャンセル扱いにしていたというのです。ヤレヤレ朝からとんだ無駄骨でした。ホテルの部屋はまだ使用できるというのでキーを受け取り部屋に戻りました、ところが今度はキーが反応してくれずドアが開きません。少し戻ったところに新聞があったので見始めると、ボーイさんが来たのでその旨伝えとキーをチェックして持ち帰りドアを開けようとしたが空きませんでした。やむを得ずボーイさんはマスターキーで開けてくれました。カードキーが増えていますが、こうしたトラブルも多くなっているのでは…朝から踏んだり蹴ったりでした。

### 2 お菓子御殿は首里城そっくり、万座毛は万人の集まる所

ホテルを10時に出発して最初に立ち寄ったのはお菓子御殿の恩納店です。ここもお菓子作りがちょこっと見れる、紅いもタルトを販売するお店です。特徴は紅いもタルトの手作り体験ができるようになっています。もちろんツアーできている私たちは時間的に無理です。ですからぐるりと見て回れば用はありませんが、みなさんいろいろと買い物をしていました。いただいた立派なパンフレットを見ると、第25回全国菓子大博覧会名誉総裁賞とか、モンド



セレクション6年連続金賞受賞の文字が躍っています。他にはビーチテラスカフェや全席オーシャンビューの展望レストランも併設されています。お菓子づくりを見学してのんびりするには最高の場所と言えます。

それよりも気になったのはこの建物です、首里城を模して作られているのです。入口の門は守礼門そっくりに造られていて、朱色の門がひととき目立っています。そして本館は正殿を模していて素晴らしい建物です。このように模倣することは法的には問題がないということでしょうか、中国の施設が模倣だらけで問題にされましたが、まっ同じ国の中で、

しかも PR してくれていると解釈すればいいのかな。

この後少し移動して万座毛へ向かいました。ここは象の鼻という岩が良く写真などに使われていることで知られています。ぜひ一度行ってみたいと思っていました、でも、どこの観光地も同じかもしれませんが、そのワンポイント

は素晴らしいのですが他はそれなりの景色です。到着すると観光バスや乗用車がたくさん駐車しています、それも外国の人たちが多くいます。東洋人は遠くから見ただけでは日本人とあまり変わりませんので、近くで話をしていると分かります。ガイドは外国の人の運転する車には特に注意してください、日本とルールが違うこともあり沖縄では外国人の交通事故が増えており、その処理に言葉の違いから時間を要することが問題になっているとか。



「象の鼻岩」と、「毛」と呼ばれる原っぱ

駐車場を出ると背丈より少し高い樹が道の両側に茂っています、アダムの樹でところどころにパイナップルみたいな実がついています。食べられるのか聞くと、食べられないことはないけれど食用にはしないそうです。そのためたくさん残っているのではと思いました。アダムの樹が途切れて原っぱになると、ものすごく強い風が吹きつけてきます。この原っぱが万座毛の名前の起こりだといいます、王様が家来を集めた際に「ここなら一万人は座れる」ということから「万座毛」になったといいます。毛は原っぱという意味とのこと。

この原っぱをぐるりと一回りするのですが、万座毛の名所「象の鼻」岩の見える位置は人がいっぱいではなかなか写真を撮れません。確かに象の鼻みたいな岩です、何とか数枚シャッターを押して先に進みましたが、この場所は海にそそり立つ断崖絶壁です。そのため強い風が常に吹いています、ボウシを飛ばされた人も多いのではと思いました。そして、散策コースの終わる辺りから、海の向こうに以前サミットが開催された特徴のあるホテルが望めました。ここを11時20分に出発しました。

### 3 琉球村の見学とランチ

11時55分にランチ会場の沖縄の駅チャンプルーに到着しました。道の駅でもないようだしどんな施設なのかと思いましたが、昔の沖縄を伝える施設「琉球村」にくっついた食事とお土産の店でした。まずはランチで事前に頼んでおいた「ゆし豆腐」をいただきましたが、まずまずのお味は私好みで満足しました。

#### ★絣のルーツは沖縄の芭蕉布

食事の後琉球村の見学をしました。村の入り口には大きな狛犬とブーゲンビリアの花が置かれ、琉球らしさの雰囲気演出しています。最初に目につくのは那覇大綱引きのとても太い綱です、竜宮城の門を思わせるような建物に綱だけが収納されています。そして今度はシーサーとブーゲンビリアの花を見て進むと「旧中曾根家の家」です、ここでは女性が機織りの実演をしていました。説明板がありそれによると…琉球織物の歴史は、紀元前にインドで生まれた絣が15世紀ごろに導入され、各地域に独自の織物が発生しました。織物の材料は麻、絹、木綿などありましたが、中でも芭蕉布の織物は沖縄独特の織物として発達しました。これが本土に北上すると大島紬、薩摩絣、



久留米餅、伊予餅となって日本の餅のルーツとなって影響を与えました…と記されていました。そうなんだ…

### ★昔の家の博物館

中心となっている展示は琉球の昔の民家や、王府の重臣だった与那原家・沖縄の戦後経済の復興をけん引した国場幸太郎の生家など8軒です。他には穀物を貯蔵する蔵、豚の飼育小屋などです。いずれも石垣に囲まれ屋根にはシーサーが乗っていました。これらの家々を巡る通路には名前は分からないものの大きな緑の木が茂り、くすんだオレンジの屋根とグレーの石垣が調和し、とても絵になっていました。

他には登り窯があって、その前にはいろいろな形のシーサーが並べられていましたし、陶芸の工房もあります。当然いろいろな焼き物も販売されています。さらに、水牛がサトウキビを引くサーターヤーがあります。でも私たちは水牛がお仕事をしているときには出会えませんでした。それやこれやで結構楽しい見学になりました。

13時15分にここを出発して次は黒糖工場の見学です。



### ★バス車内での説明

- ・沖縄には本島、宮古、八重山の三地区に独特の方言がある。戦争の時には方言は禁止された、それは他県から来た人に分からずスパイと勘違いされたからという
- ・沖縄の人が希望する就職先 No1 は公務員、次は米軍施設という
- ・辺野古には現在すでにキャンプシュワブが存在している、そこに新たにV字型滑走路を建設しようとしている
- ・読谷村には道路を挟んで柵内に耕作地が広がるが、ここは米軍基地内で地下に弾薬庫がある。でも地上を勝手に住民が耕作している
- ・今夜のホテル近くにアジア最大の「イオンモール」がある、夕食はOPになっているので出かけてみるのも良い

## 4 黒糖工場からメインの「勝連城跡」へ

15分ほどの移動で黒糖工場に到着し見学。しかし、この工場は黒糖よりもハムの製造が主力の会社だった。黒糖工場と言えばサトウキビを絞る機械が1台あって、他にはそれを煮詰める設備が少しだけでした。ここも少し見たら黒糖のお土産を買ってもらう売店になっています。したがって買い物以外にはすることがありません。ここを13時50分に出発して、きょうのメインである勝連城へ向かいます。

### ★世界遺産の勝連城跡

バスは城跡休憩所のパーキングに15時ごろに到着しました。ここはうるま市の与勝半島の付け根付近に位置しています。標高100mの急峻な丘の上に建ち、土地の高低差を上手く利用しているのが特徴です。この城跡は沖縄で最も古く12世紀ごろと伝えられています。沖縄県には、琉球王朝の都だった首里城跡や北山王の居城だっ



た今帰仁(なきじん) 城跡など、世界遺産に登録されている城跡(グスク)が5か所(首里城跡、座喜味城跡、今帰仁城跡、中城城跡、勝連城跡)あります。「勝連(かつれん)城跡」は、5城のなかで最も古いともいわれるグスク跡。城全体の姿は休憩所辺りから全景を望むことができます、まずはじっくり全体像を眺めてみます。緑の芝生となだらかなカーブを描いて積み上げられた、グレーの石垣の曲線美がとても美しく優雅に感じられます。そして、三の曲輪の高々とした石垣に圧倒されます。



この城の石垣は「布積み」という、切石を水平に積んだ石垣が美しいです。城内は北城と南城の大きく2つのエリアに分かれていて、現在観光名所として整備されているのは前者。4つの平坦地を階段状に配置していて、本丸にあたる一の曲輪(くるわ)まで登るのはひと苦勞です。一の曲輪からは、北側に金武湾(きんわん)から山原(やんばる)地方が、東側にはこれから行く海中道路が見え、南側は中城湾(なかぐすくわん)から知念半島まで見渡すことができます。

そんな沖縄有数の絶景スポットであり、且つ、世界遺産であるにもかかわらず、無料で見られるのも多くの観光客を集める理由の一つになっています。



#### ★勝連城の歴史

最古といわれる沖縄の王朝「英祖王統」によって、13世紀末～14世紀初めごろに築かれたとみられています。その後は按司(あじ)と呼ばれる王族が支配しました。15世紀に入って阿麻和利(あまわり)という人物が、圧政を敷いて遊興に耽っていたといわれる9代目の勝連按司茂知附(もちづき)を倒し、勝連城主となります。阿麻和利は勝連城を中心に海外貿易を推し進めて着実に力をつけ、ついには琉球統一を考えるほどに成長

しました。しかし、懐柔策として阿麻和利の妻とされていた琉球王の娘百度踏揚(ももとふみあがり)がこれを知って首里城に駆け込み、1458年に機先を制した国王軍によって阿麻和利は攻め滅ぼされたといわれています。

地元では今も阿麻和利を名君とする「おもろ(伝承)」が残り、勝連城内からは中国産の陶磁器などが大量に出土したことから、勝連の繁栄ぶりうかがえます。沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』には、「勝連わ何にぎやたとえる 大和の鎌倉にたとえる」と歌われ、勝連は鎌倉にたとえられるほど栄えていたのです。

2013年の調査で10枚の金属製品が発見され、その後のX線分析により4枚がローマ帝国時代のコインであることが確認されました。築城から1000年以上も前の西洋のコインがどうして勝連城跡から発掘されたのか、今後の研究が期待されます。

この後、道の駅ならぬ海の駅「あやはし館」へ立ち寄るために海中道路へ向かいます。この橋が出来たのはある企業が島に石油タンクを造りたいという話が持ちあがったとき、ならば島を結ぶ橋を架けてもらいたいという条件を出して出来たという。確かに島が見えてくると高い所に白いタンクがいくつか立ち並んでいました。この海中道路

は海に架かる橋を走っているように感じます、でも盛り土されているようです。

「あやし館」に到着するとみなさんお土産探しに出かけたようですが、私は展望台に上がり海の景色を堪能しました。すぐ目の前には風力発電の風車が二基あって、羽根がゆっくり回転しています。その辺りにはヤシの木が並びウインドサーフィンをしている人もいました。そんな景色は南国そのものと感じます。これで今日の予定は終えて、いよいよ明日是那覇市の国際通りでの自由散策を残すのみとなりました。

★夕食はホテルを出て「イオンモール沖縄ライカム」へ

ガイドの説明でイオンモールはタクシーで1000円くらいの距離というので、ホテルでの食事は予約せずに外出しました。ロビーでタクシーを頼もうとしたら、すでに先客が予約して一緒することに。聞いていたようにタクシー代は900円で到着、ここからは別行動で思い思いに店内を歩きました。入館するととても広い吹き抜けの空間が広がり、その大きさを実感しました。配置図から建物は5階建てのようです、説明図を見て4階から3階へ降りて何を食べるか探すことにしました。主なものは肉料理、寿司、麺類、ハンバーグなどの洋食に中華もあったかな。途中のコーナーでは何かショーらしきことをして人だかりがしていました、その近くにはラーメン屋がありました。それを見て結局、私はラーメン&餃子定食にしました。やはり貧乏人根性なのか普段食べなれたものが食べたくなりました、妻もラーメンでした。お値段は860円と550円、ちなみにホテルの食事は2800円でした。

## 沖縄四日目

旅も最終日となりました、きょうは何でと思うほどゆっくりの11時出発です。このツアーコースは帰りに適当な便が確保できずこのような中途半端な時間になったと思われます。それにしても10時ころに出て自由時間を増やしてくればよいのと思います。食事の後地元紙の琉球タイムズを見ていましたら、昨日見学したオリオンビールの見学者が100万人を達成したと大きく載っていました。該当者は台湾の女性でした、もう少しのところで私たちのツアーが対象になったのかもしれませんが、残念。そのほかの記事は日産のカルロス・ゴーンのことをあちこちの紙面をにぎやかさせ、日産の記事オンパレードでした。

### 1 国際通りでランチは沖縄そば、ゆいレールに体験乗車

朝目覚めて部屋の外を見ると、普天間基地の滑走路が遠くに見えていました。何事もなければ基地が隣にあってもどうということはありません。でも、墜落事故が起きてしまうと人命にかかわります。基地は必要となれば、人家のない場所に造ることが当然のことです。ただ昔は家がなかったけれど、基地の周りにどんどんと家が増えてきた



左上の細く帯みたいに見える部分が滑走路

たことで今の問題になっています。よく議論されるように基地は必要ならば、沖縄に集中させるのではなく、その狙いから全国各地にバランスよく配置するべきです。そのためには沖縄の負担を軽減させるべきと言うだけでなく、わが県に基地を造ってよいと何故言わないのか！全国の知事で誰一人そうした提言をしないのは、おそらく選挙で負けると思っているからでしょう。ならば、本来はこうすべきということがあっても、選挙民がウンと言わないことはやらないし、やれないと思っていることになります。政治家になった以上、こうすべきだということは信念をもって提言し

取り組むことが求められます。たとえそれが落選につながるとしてでも……それが政治家です。

#### ★バス車内の説明

- ・昔はツアーのお客さんに沖縄へ移住する気がありますか、と聞くと 1/3 のお客さんが希望しました。でも今回はお一人です。移住者が増えたことでレオパレスがあちこちに建てられています、家賃は5~6万円ほど。コンビニはどこにもあって生活には困りません。スギ花粉がないので花粉症の人はその時期だけもいいかも
- ・人口130万人で車は100万台、ほぼ一人一台保有の状態です。これが離島だと2台保有になります
- ・那覇市のメインストーリー「国際通り」は戦後真っ先に復興した奇跡の通りと言われています。その名前は昔国際劇場があって、その名前が残ったのではといいます

## 1 沖縄そばを食べました

12時ごろに県庁前の広場でバスを降りて自由行動になります。ここの出発時間は14時40分です。交差点を渡って国際通りに入ってぶらぶらと沖縄そばのお店を探します。看板はたくさん出ていてやはり豚肉料理のお店が多いようです。お土産の店も立ち並んでいますし、たくさんの人々がぞろぞろ歩いています。聞こえてくる言葉はほと



県庁前から国際通りを望む

んどが日本語ではありません、地理的に沖縄はアジアの国から近いことが有利に働いています。まもなく空港の滑走路も2本になりますから、ますます外国のお客さんが増えることでしょう。この姿からは沖縄の人は国内(本土)よりも海外に目が向いているようです。

しばらく歩いてようやく沖縄そばのお店を見つけました、なかなかしゃれた雰囲気でした。店内に入ると、お姉さんが食券を買ってくださいと言う、見ると入り口右手に自販機があります。ちらちらと眺めて、やはり沖縄そばにしました。奥の離れた席に腰をおろして待つことしばし、待望の沖縄そばが運ばれてきました。そばというものの麺はそば粉ではなく、小麦粉で作られているのが沖縄そばです。少し太めの麺はやや硬めです、ゆっくり食べましたが温かいそばなので暑くなり汗が出てきました。見ると扇風機が壁に掛かっていたのでスイッチを入れてほっとしました。今回の旅の目的の一つに沖縄そばを食べることがありましたが、これで心置きなく帰ることが出来ます。

## 2 沖縄都市モノレールに乗車

この後お土産屋さんを覗いて回り、シーサーのちょっとした置物を一つ買いました。金色や黒色などありましたが赤いシーサーを今回の記念にしました。そして、時間がまだあるのでゆいレールに乗車しようと県庁前駅に向かいました。ダイヤ表を見ると時間6本以上走っており、数駅先まで行って戻ってくるのに問題はありません。そこで、よく分からないものの4駅先の「おもろまち駅」まで行くことに決めました。料金は230円で切符には沖縄都市モノレール線と印刷されています。自動改札に投入して乗車するホームを確認してエスカレータでホームへ上がります。ホームを間違えるとまた降りてこなければなりませんので、初めての所は難しいです。

直に列車が入ってきました、2両連結の2両目車両の後ろに乗り込みました。運転席から流れていく景色を見てい



ると、那覇市が31万人の都市であることが分かります。那覇の名前は「ナーファ」「ナファ」から来たもので漁場「ナバ」が語源という説があるそうです。乗車した区間はほとんどが川に沿って走っています、今現在は那覇空港と首里を結んでいますが延長の計画もあるとか。ただ難点もあって利用者が大きく増えても、2両を3両とか4輛の連結運転ができないのです。何故かというとならぬと高架を走るこのモノレールは、駅舎のホーが2両分しかないのです。



おもろまち駅に着いてコーヒーでもと思いましたが、あまり時間がないのでそのまま帰ることにして県庁前駅までの切符を買いました。自動改札に投入したところブザーが鳴って扉が閉まってしまいました、あれれと思っているとすぐに駅員さんが飛んできました。切符が違うのです、確かに切符はこちらへ来た時のものと、先ほど買ったものがポケットに入っていましたので、私は行先の県庁前駅の切符を投入しました。が、これが間違いだと言われました。これまで JR で名古屋へ行くときの切符には、名古屋が刻印されていて発売する東浦の刻印はありませんで

した。その感覚で県庁前駅の切符を投入したのですが、それが間違っていました。最近では発売した駅名が刻印されているのです。知らなかったです！ 失敗して初めて分かりましたが、要は使用済み切符を記念にと持ち帰ろうとしたことが原因でした。

無事に県庁前に戻り、空港の混雑が予想されるということから16時5分のフライトですが、14時50分頃には空港に到着しました。JTA44便は少し遅れたものの16時20分に離陸して、予定通り18時10分にはセントレアに着陸しました。その足で母を迎えに行き無事に今回の旅を終えることが出来ました。